

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2012年 10月 10日

派遣者氏名（専門分野）	久野 洋 （ 日本近代史 ）
-------------	----------------

派遣期間	2012年 9月 9日 ～ 2012年 9月 19日
------	----------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
台湾	南投県中興新村 台北市	国史館台湾文献館 中央研究院台湾史研究所

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法を記入）

派遣者は国史館台湾文献館（以下、文献館）において「台湾総督府文書」を閲覧した。

まず文献館で調査をする事前準備として、ホームページ上 (<http://www.th.gov.tw/web/>) において利用方法をチェックした上で、電話で訪問日時について連絡を入れておいた。電話連絡は大阪大学に留学していた方を介して行った。

派遣者は南投市内のホテルに宿泊しており、「南投バスターミナル」から「總達客運」バスもしくは「台中客運」バスに乗って、文献館に通った。バスに乗って15～20分で文献館最寄りのバス停である「光明里」に着く。バス停から文献館までは徒歩3分ほどである。昼食を購入できるところは文献館周辺に見当たらず、派遣者は調査初日、昼食を抜いて一心不乱に画像ファイルを閲覧した。昼食は事前に行って行く方が無難である。

文献館で画像ファイルを閲覧するに際しては、受付でアカウント交付の申請を行う必要があり、パスポートの提示を求められた。荷物は閲覧室内にあるロッカーに預けた。受付の方は英語・日本語があまり得意ではなかったが、日本語の話せる研究員・スタッフがおり、スムーズに閲覧申請を行うことができた。

「台湾総督府文書」はデジタル化され、データベースでキーワード検索ができる。ただし検索に際しては、「台湾総督府文書」の文書構造を十分に注意して行う必要がある。その点については、例えば、檜山幸夫編『台湾総督府文書の史科学的研究』（ゆまに書房、2003年）が有益である。また閲覧室内には中京大学社会科学研究所・台湾総督府文書目録編纂委員会編『台湾総督府文書目録』があり、データベースとあわせて、档案検索に役立つ。

画像ファイルは申請書に必要な事項を記入し複写・ダウンロードを行った。値段は以下の通り。

- ①白黒複写：B4以下1枚新台幣ドル2元、A3・1枚新台幣ドル3元
- ②カラー複写：B4以下1枚新台幣ドル10元、A3・1枚新台幣ドル15元
- ③ダウンロード：電子文書A4・1枚新台幣ドル20元

なお派遣者は、南投県から台北市内に移動した後に、中央研究院台湾史研究所において「台湾総督府文書」の画像ファイルを閲覧することができることを知った。台湾史研究所においても、パスポートを提示し申請書を記入すると、文献館とほぼ同様のやり方・条件で閲覧・複写・ダウンロードが可能である。史料閲覧という意味においては、台湾史研究所で事足りる。ただし史料調査として、現地フィールドワークも兼ねつつ、総督府文書が実際に収蔵され申請すれば原文書を閲覧できる文献館に行くことには、十分意味があると思う。また文献館に隣接している文物館および史蹟館では、台湾の歴史・文化についての展示をしており、非常に見応えがある。

